

## E-3 : 研究力分析とその活用

開催日時・会場 9月17日(木曜日) 15:15 - 16:45 会場E

### 社会との共創による 新たな若手研究者支援モデルの検討

大学や研究機関の外でも、企業や民間財団、文化機関や公共団体等もまた独自の形で学術研究の発展を支援する取組を展開している。大学等に所属するURAがそのような社会の様々な団体や機関と相互に連携することによって、学内の支援組織では有し得ない外部のパートナーからの資源を活用できるようになり、大学等の研究力強化に貢献できる可能性がある。また学術研究を取り巻く社会の各方面からの視点を得ることは、URA自身の研究力分析を向上させ研究支援活動を多角化させることが期待できる。他方それら学外のパートナー組織にとっても、大学等との連携を学術研究へのアクセス向上や産官学連携の推進などに役立ててもらえるであろう。

そこで本セッションではまず、京都大学において若手研究者の国際的モビリティを推進する取組を通じて、志を同じくする様々な学外組織とのあいだでゆるやかな連携を深めてきた経緯について紹介する。続いて広島大学において、地方自治体と連携して地域の課題解決のための研究のマッチングや地域産業に資する共同研究を進めてきた取組を紹介する。最後にこれら研究の国際化や若手研究者の活躍、政策課題の解決といった共通課題に対する大学と社会との共創の事例検討を通じて、関係者からのコメントも頂きつつ、参加者全員で議論を深める場を設ける。

これらにより、URAが社会と一体となって学術研究の発展ならびに地域・国際社会との知の循環に貢献するような新たな研究支援モデルを検討するための契機としたい。

### セッション担当者

桑田 治：京都大学 学術研究支援室  
リサーチ・アドミニストレーター(主任)



京都大学にて理学部卒業／大学院理学研究科修了(生物物理学専攻・理学博士)。視覚受容の分子機構解明をテーマに複数の大学で研究職に従事(慶應大・医学・助手、米国イリノイ大・研究員、筑波大・生物系・助手、九州大・理学・リサーチレジデント)。東京都内で約10年間の民間企業勤務(特許翻訳者／技術者)を経て、2016年4月より母校を勤務先とする現職に。部局系URA業務全般のほか外国人研究者支援を担当。

## 登壇者

園部 太郎 : 京都大学 学術研究支援室  
リサーチ・アドミニストレーター(主任)



同志社大学工学部卒業、京都大学大学院エネルギー科学研究科修了後、タイ国エネルギー環境合同大学院大学(JGSEE)、キングモンクット工科大学トンブリー校にてPh. D (Energy Technology)取得後、2007年より京都大学にてポスドク、グローバルCOE助教を経て2012年1月より現職。京都大学ASEAN拠点、欧州拠点、学術研究支援室を循環し、本学の研究環境の国際化を担当。

鈴木 環 : 京都大学 学術研究支援室  
リサーチ・アドミニストレーター(主任)



慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科(環境デザイン)修士課程修了、博士課程単位取得満期退学、パリ大学第一大学院留学。(独)国立文化財機構 東京文化財研究所研究員、国際協力機構(JICA)専門家を歴任し、西・南アジア・欧州の文化遺産国際協力事業に携わる。2014年より現職、京都大学欧州拠点の運営を通じた国際共同研究支援、人文社会学支援、若手研究者の国際化支援を中心に担当。

仲野 安紗 : 京都大学 学術研究支援室  
リサーチ・アドミニストレーター(主任)



東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻(保存修復建造物) 修士課程修了、博士課程研究指導認定退学。文化庁新進芸術家海外研修員としてMansilla+Tuñón Arquitectos(マドリッド)に勤務、国立王室コレクション美術館を担当。以降、7年間にわたりスペインを中心に近代建築保存修復・設計に携わる。帰国後、京都造形芸術大学美術館大学構想ディレクターに着任(~2012年)、NPO法人Drifters International 理事(~現在)。2014年から現職、若手研究者を中心とした研究環境に関する支援を担当。

WITTFELD Aron : 京都大学 学術研究支援室  
リサーチ・アドミニストレーター(主任)



ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所日本学科修士課程、ハイデルベルク大学 東アジア研究センター日本学科博士課程 修了。学術系出版社(事業開発部)を経て、2018年より現職。国際共同研究支援、次世代研究者支援、プレアワード業務を中心に担当。

## 登壇者



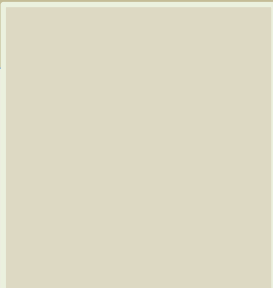
石原 悠一郎: 広島大学 学術・社会連携室  
東広島市政策課題共同研究部門  
共同研究部門助教

立命館大学経営学部経営戦略系を卒業(専攻はロジスティクス・交通政策・LRTなど)。2012年4月に広島県東広島市役所に就職。外国人対応窓口や地域自治組織支援の業務をおこなう。2019年4月より広島大学で出向採用。広島大学学術・社会連携室 東広島市政策課題共同研究部門の共同研究部門助教として東広島市の政策と広島大学の研究のマッチングや共同研究の支援を担当。



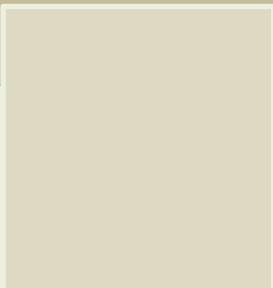
雪野 弘泰: 山岡記念財団  
常務理事

京都大学農学部農業工学科卒業後、ヤンマー入社。農業機械の開発・企画、研究開発マネジメントを経て、社長室を担当。2015年からオープンイノベーション、新規事業を担当するなかでSDGsの企業としての取組みに関与。現在は、ヤンマーの企業財団として、2016年に設立した山岡記念財団にて、持続可能な社会を目指した日独の学術・文化交流事業を企画、展開している。



渡辺 元: 公益財団法人 助成財団センター  
理事

(公財)トヨタ財団のプログラム・オフィサーとして研究および市民活動等に対する助成事業の開発・運営に長年携わり、その後はプログラム部長・事務局次長。この間、都留文科大学非常勤講師、立教大学大学院特任教授を務めたほか、NPO法人市民社会創造ファンドの立ち上げにも携わり、現在、副理事長。2013年1月より(公財)助成財団センターのプログラム・ディレクター、事務局長を経て、現在、理事。14年4月より立教大学大学院客員教授も併任。



宮崎 亜矢子: Springer Nature  
Communications  
シニア・コミュニケーションズ・マネージャー

英国のインペリアルカレッジロンドンを卒業後、博士号を取得。専門分野は、有機金属化学およびケミカルバイオロジー。エンタテインメント企業での勤務を経て、理化学研究所において科学技術振興機構(IJT)の研究プロジェクトに携わる。名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所(WPI-ITbM)で研究推進および拠点形成に従事した後、現職のシュプリングナー・ネイチャーでコーポレートコミュニケーションを担当。